

## HBLの4球団

石狩レッドフェニックス



士別サムライブレイズ



美唄ブラックダイヤモンドス



富良野ブルーリッジ

選手は日帰りで移動。  
アウエーの3連戦は  
想像以上に過酷…

石狩レッドフェニックスは、昨年発足の「北海道ベースボールリーグ(HBL)」に参加する球団です。なぜ石狩で?の質問に、**老田よし枝**代表はすぐに答えてくれました。「ここにはスポーツを受け入れる雰囲気がありましたから」

本年3月29日、市民課の窓口にて若者たちが長い列をつくっていました。彼らは石狩レッドフェニックスの選手たち。石狩市民となるべくやって来た彼らに私は目を見張りました。これほど多くの若者が、野球をするために全国から移住してきたのです。私は、この球団にぜひお話を聞きたいと思いました。

# 21人の若者が「石狩市民」に

エピソード  
01

老田代表は志美にある室内練習場「フェニックスフィールド」を運営。アスリーの食生活を応援する、道内で2人しかないアスリートフードマイスター1級を持つ方でもあります。3年前、現HBLの出合祐太代表に会って、その話に共感。「自分が代表になるとは思いもしなかった」と苦笑しつつ、気付けば球団立ち上げに奔走していたといいます。

老田代表が共感したのは、球団を大都市ではなく、若者離れが進む市町村につくるというHBLのコンセプトにありました。HBLでは、選手は球団のあるまちに暮らし、そこで働きながら、まちの名を背負って野球をします。「それが地域活性化につながる」と聞いたとき、私は石狩でならきつとできると思いました」と老田代表。

リーグ開幕から、チームは破竹の勢いで勝利を重ねています。ただ、老田代表が本

### 背番号 1 宮崎将太選手

外野手、神奈川県立厚木北高校出身。特技は「人間観察」。老田代表も「いつもチームをよく見てくれます。彼がいて本当に良かった!」と全幅の信頼を寄せます

### おいだ 老田よし枝さん 石狩レッドフェニックス球団代表

室内練習場「フェニックスフィールド」、札幌メンタルビジョントレーニングセンターを運営するほか、アスリートフードマイスターとしてアスリートに食生活のアドバイスをするなど、13年間の米国生活で得たグローバルな視点から北海道のスポーツ支援に携っています



## 写真で見る石狩レッドフェニックス/

### 球団誕生編



球団記者発表



市役所で転入手続き



石狩市民に!



市役所でユニフォームのお披露目



室内練習場「フェニックスフィールド」にて

5/8 ホーム開幕戦編



先発の小林健吾投手は7回2失点の好投



タイムリーを放った東海林涼選手



中谷内莞選手はこの日5打点!



士別サムライブレイズに15-3で勝利!



試合後は、選手全員でお見送り

エピソード 02

石狩でプロ野球選手になった選手たちの強い思い

当に求めるものは、少し別なところにある。当に求めるものは、少し別なところにある。当に求めるものは、少し別なところにある。当に求めるものは、少し別なところにある。

一方、選手たちはどんな思いで石狩に移住し、野球と向き合っているのか。私は2人の選手に取材をしました。

一人は江別市出身の平山遊野選手。鶴川高校在籍中に全道大会への出場経験を持つ21歳の内野手は、石狩で働きながらプロ野球選手として、また現役大学生としても頑張る「三刀流」の選手です。

きに、石狩は良かったなと思える土台をつくってあげられたらと思うんです」

後悔を払拭するためです」と平山選手。「トライアウトを受け、球団はドラフト制で決まりました。正直、石狩に決まって本当に良かった」と笑顔を見せます。

チームの誰よりストイックな日々を送る平山選手は、「今はしんどさより充実感でいっぱい」と頼もしく、「HBLで優勝して石狩の名を広めたい。そのために日々練習しています」と目を輝かせます。

もう一人は、神奈川県出身の宮崎将太選手。チーム最年長の31歳。高校卒業後、野球を離れ社会人となるも、テレビでHBLを知り、再び野球に挑戦する意欲が湧いてきたと言います。

「12年のプランクがあり、年齢的にも野球をするには遅いかもかもしれませんが、いろいろな経験をしたい」と語り、この道を選ぶことに迷いはなかったときっぱり。最年長としての責任感も強く、「HBLはできたばかり。自分たちでリーグを盛り上げる努力が必要だし、ばくもいつか球団スタッフとして若い選手がNPBを目指してレベルアップできる環境をつくってあげたい」と、その目はすでに未来にも向けられていました。

石狩で悔いのない野球人生を送ろうとしている二人。その挑戦する姿は、見る者の心まで熱くします。

背番号 5 平山遊野選手

内野手、鶴川高校出身、北翔大学4年生。趣味は音楽鑑賞で今は「にしな」がお気に入り。老田代表も驚きのストイックな選手で、本人も「野球上達のため身の回りをきれいにするなど私生活から大切に」と語ります

